ゼ からのスター

栽培技術の向上に努めていま 年 め は a Ă 前 専業農家としてキャ 7 飲 這導員 でしたが、 格的な農業へ 青年部に加入しました。 に帰郷し 食店業務等に携わ ねぎ 40 域 一樹さん。 の先輩農家、 から教わりながら、 a て、 ん。高校卒業後 、水稲4.2 haを営 母親の章子さ の従事は初 就農と共に J A 営 ŋ ツ 30 3

験がほとんど無かっ それまで農業の 知識 たので、 や経





先入観 で、 うになっ 農家はもちろん、 出 域 にしています。また青年部に 日誌を忘れずにつけること トにまとめたり、 ができました。それらをノ たちの考え方を吸収 加入したことで、JAや地元 います。」 本当に重要なのだと実感し 来ました。 の農家とも知り合うことが 今後の栽培に向けた参考 無く、 人とのつながり 農業に携わるよ 素直に より広 日々の作業 · 色 すること 々な人 い地

計 的な栽培に向けて

収穫できるような準備を順を見直し、効率よく適た。そのため、今年は作 ています。 取の天 り 作 候 そのため、今年は作業手 遅れが出てしま 業が重なり、 不順等によって他作物と 佐藤さんの圃場では、 効率よく適期に キャベツの いまし を行 0

すが、、 な対 害虫 され した栽培計画を立ててはいまます。また、収穫日から逆算なるので、特に気を配ってい ベツ栽培では水管理が重要に順調な生育を促しました。キャ と話す佐藤さん。 プリンクラーなどを利用し、 つの傾向が見られたので、 位をきちんと決め、 導員と相談しながら 昨年同様に、 防除などの作業の優 てしまうので、 応を心掛け きちんと決め、JA営農防除などの作業の優先順てしまうので、追肥や病、どうしても天候に左右、どうしても 今年も 7 1 ます。」 ス ば

0 Í

標 の佐藤さん。それに向 安定的に出荷するのが目 玉 で 高 品質なキ ヤ ベ ツ

> 術の向上を図ってい 参加して意見交換 講習会や研修会にも積 います。 的

から、 経験 と守って適期に収穫し、予定 す。まずは作業工程をきちん と抱負を語ってくれました。 となれるよう頑張ります! ていきたいと思い 収量が得られるようになって も取り組んでいき、 青年部員として地 少しずつ栽培知識 てきましたが、 不足だと痛感してい 自分なりの栽培を試 、ます。 域の活 地域 まだまだ は身 動に また の核

